

いま!この一冊!

『トットちゃんの15つぶのだいず』



くろやなぎてつこ げんぶん
黒柳 徹子/原案

かしわばさちこ ぶん
柏葉 幸子/文

まつもと はるの え
松本 春野/絵

こうだんしゅ
講談社

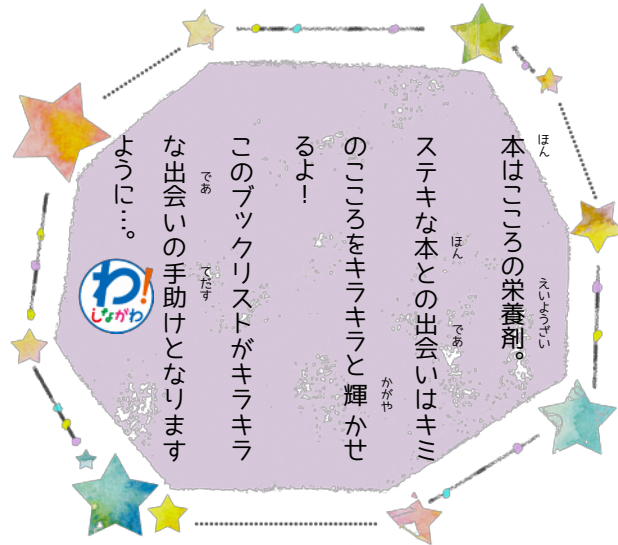
E/カ/



世界中で読まれている『窓際のトットちゃん』。そこでは書かれていなかった戦争のころのお話がこの絵本でえがかれています。

トットちゃんが大きくなったおべんとうの時間は、戦争がはじまるようになってしまいます。大きくなった駅のキャラメルの自動販売機から空っぽです。トットちゃんの1日の食べものはだいずが15つぶだけ…。トットちゃんはおなかを空かせながら、このだいずをいつ食べようか悩みます。

そんな時代をがんばって生きたトットちゃんのもうひとつのストーリー、いあさきちひろさんの孫にあたる松本春野さんのやわらかい絵とともに味わってみてはいかがでしょう。



としょかん
図書館おすすめブックリスト



キラ
キミのところに☆めきを

しょうがくせい
小学生

『カリン・カリ』 mRNAワクチンを生んだ科学者』



まさだ ちよ
増田リナ/著

95//

ポプラ社

5年生

新型コロナウイルスであるmRNAワクチンの開発のために働いたアメリカ在住のハンガリー人の生化学者、カリン・カリ。

このたびの2023ノーベル生理学・医学賞をもらったことで知られています。そんな世界をたすけた研究者の生き方や苦勞を重ねた研究についてつづったこの本から、その力強い生きざまや情熱が伝わってくるはず。

ねんふゆごう
2023年冬号

編集・発行：五反田図書館

『ぼくのいぬは』

E/9

『どうしてこんなにかわいいのか』

しゅん/作 えがしらみちこ/絵 KADOKAWA



小学2年生のしゅんは、夏休みの自由研究で犬のチャコについて調べることになりました。チャコはメスのしばいぬ、15才。どうして夜に寝ないのか、なぜ鼻は黒いのか、かんさつしたりネットでしらべたり…。こうしてチャコがどうしてこんなにかわいいのかがわかりました。

『世界一長い鉄道トンネル』

51

『スイス・アルプス山脈をほりすすむ』

笹沢教一/文 鈴木さちこ・萩原まお/絵 Gakken



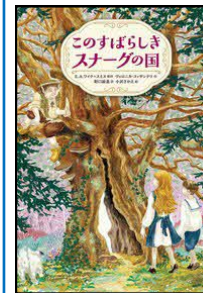
「ゴツタルド・ベース・トンネル」は、アルプス山脈を通る世界一長い鉄道トンネルです。このトンネルをつくるにあたって、アルプスの自然環境を守ろうとした人々の熱い思いがありました。そんな「世紀のプロジェクト」と呼ばれる大工事について取材してまとめた感動のノンフィクションです。

『このすばらしきスナグの国』

93/7

E. A. ワイクミス/原作 ウェルカ・コヴァリ/作

野口純美/訳 おざわ 王 徳間書店

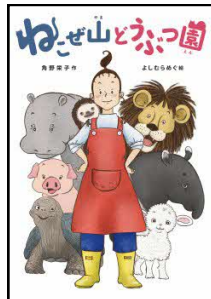


口をきかない女の子フローラと、サーカスで育った男の子ピップ。〈身よりのない子どもの家〉で出会って仲良くなります。そこで働いているスナグ族のゴルボ。魔女や人食い鬼、ゴブリンやトロールのいる世界で、冒険をくり広げていきますが…。

『ねこぜ山どうぶつ園』

93/カ

角野栄子/作 よしむらめぐ/絵 金の星社



ねこぜ山どうぶつ園の園長のリリーさん今日もおおいそがし。「カバのおしりちゃんのエクササイズがうるさい」ともぐらのモグ氏に文句を言われたり、友だちのほしい羊のヒールくんのために、ライオンのオンラインくんに頼んで友だちを探してあげたり…。さまざまはどうぶつたちがとてもにぎやかなどうぶつ園のお話です。

『ベビーシッターズクラブ』

93/マ

『クリスティのサイコーのアイデア!』

ア・M・マティ/作 山本祐美子/訳 くらでこ/絵



12才のアメリカ人、クリスティ。ママが弟のベビー・シッターさがしに苦労していることから、友だちのメアリー・アン、クラウド、ステイシーの4人で、ベビー・シッターズ・クラブを結成することに。力を合わせているんなトラブルを乗り越えていくが…。

『ニワシドリのひみつをもとめて』

95//

『ものづくりする鳥のふしぎをさぐる旅』

鈴木まもる/著 理論社



子どものころ、図書館で見つけたふしぎな鳥の写真。調べていくうちに、それがものづくりする鳥として知られるニワシドリであることがわかりました。大人になった著者は、そのなぞを解くため、南半球へと旅立って…。ふしぎな鳥ニワシドリの秘密にせまる旅行記です!

『ごめんねでてこい』

93/サ

ささきみお/作・絵 文研出版

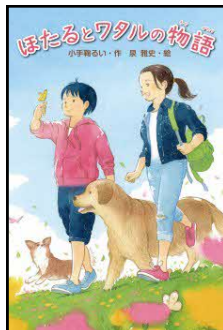


はなちゃん、大きくなばあちゃんとしばらくいっしょに暮らすことになりました。とてもやさしいおばあちゃんと過ごせるのはとても楽しかったけれど、いつもとちがう生活にイライラしてきます。ある日、お友だちのことで「おばあちゃんなんて、きらい!」と言ってしまったのはなちゃん。ちゃんと「ごめんね」が言えるのでしょうか。

『ほたとワタルの物語』

93/ロ

こままり/作 いずみまさし/著 金の星社



アメリカから日本に来た少女、ほたる。ひとりぼっちでしたが、同級生のワタルに声をかけられて友だちに。猛獣が好きなほたと、花屋さんになる夢をもつワタル、すきなものも育った環境もちがっていましたが、ふたりは大の仲良しになります。しかし、ほたるはアメリカに帰らなければならなくなりました。悲しくはかなく美しい友情の物語。

『図書館がくれた宝物』

93/7

ケイト・アム/作 橋田理絵/訳 徳間書店



ドイツとの戦争がはじまったばかりのロンドン。ウィリアム、エドワード、アンナの3人兄弟の保護者がありだった祖母がなくなった。遺産は後見人がいないと手をつけられない。そこで弁護士は、集団学童疎開に参加することを提案する。ひょっとしたら疎開先で後見人になってくれる人が見つかるかもしれないと期待するが、厳しい疎開生活で3人を救ってくれたのは図書館だった…。